

校舎のトイレが新しくなりました！ 先輩の取組にも感謝

夏休みから始まっていた校舎のトイレ改修。夏休み明けからは体育館のトイレを利用するなど、子どもたちには不便な日々が続きましたが、ようやく10月31日（火）から、使用が始まりました。

令和3年度に、当時の6年生（現在の中学2年生）が授業でトイレ改修の必要性について調査し、町教育委員会を招いてプレゼンしたことが、今回のトイレ改修につながりました。

新しいトイレは、手洗いの水道や照明、換気扇などが自動で使えて、衛生的です。和式だった便器もすべて洋式になり、蓋を閉じて水洗することで、より衛生的になりました。また、床が乾式になったことで、水を使うことなくシートで拭き上げるので湿気も軽減されました。さらに、男女が逆になり、女子用トイレが広くなりました。

安全対策など、これからも工事がありますが、応急処置をして、使えるようにしています。先輩の取組、頑張りにも思いをはせて、新しいトイレを大切に使っていきます。



「人権の日」 今年は「平和について考える」講話を聞きました！

毎年10月最後の土曜日に実施している「人権の日」。今年は、地元の松永欣子さんをお招きして、講話をしていただきました。松永さんは78年前に太平洋戦争が終わったとき、小学1年生でした。テーマは「今こそ平和について考える」。世界のあちこちで武力による衝突が起きている今、日本の戦争の生の記憶を聴くという貴重な機会でした。数年ぶりに保護者にも公開しての人権の日になりました。



戦場にならなくても、空襲におびえて毎晩防空壕で寝たり、食糧難に直面したり、家族を亡くしたり命からがら国外から帰国した人がいたり、戦争中はもちろん、戦後にも厳しい生活が続いたことを、当時のモンペ姿で、体験者の視点で話していただきました。名札が縫い付けられていたことと、今のガザ地区で子どもたちの手足に名前が油性ペン等で書かれている意味を重ね、「宝物だった」という稲を手にして話される姿。お知り合いの方の「私の戦争が終わるのは、私が死んだとき」という言葉の重さ。「戦争を起こさないためにどんなことができるか、しっかり考えてください、頼みましたよ。」と、子どもたちに平和のバトンを託して講話は終わりました。



教室に戻った子どもたちは、講話の感想を書き、発表し合って学びを確認しました。年齢に応じてしっかり考えることができました。6年生はこの後、長崎に修学旅行に行きます。さらに学びを深めてくれると期待しています。

